

## JENESYS 2.0

### 中国大学生訪日団第7陣

訪問日程 平成25年10月28日（月）～11月4日（月）

#### 1 プログラム概要

中国日本友好協会が派遣した中国大学生訪日団第7陣計70名が、10月28日から11月4日までの7泊8日の日程で来日しました。（団長：劉子敬（リュウ・シケイ）中国日本友好協会理事、中国人民対外友好協会理事）

本事業は「JENESYS2.0」の一環として行われ、日本の大学生と交流したほか、企業視察、地方自治体による講義など「クールジャパン」をテーマに様々なプログラムを実施し、日本に対する包括的な理解を深めました。

#### 2 日程

##### 10月28日（月）

成田空港着、オリエンテーション

##### 10月29日（火）

皇居・二重橋見学、日本のアニメ文化に関する講義、凸版印刷(株)印刷博物館視察、国会議事堂視察、歓迎会

##### 10月30日（水）

神奈川県へ移動

山下公園見学、神奈川県政の説明、神奈川大学訪問・交流、和風旅館での日本文化体験

##### 10月31日（木）

みかん狩り、芦ノ湖見学、日本文化体験（寄木細工）、箱根大涌谷見学

##### 11月1日（金）

静清浄化センター視察、(株)明治 東海工場（製菓）視察、登呂遺跡見学

##### 11月2日（土）

三保の松原見学

東京都へ移動

日中学生合宿：浅草見学、意見交換会

##### 11月3日（日）

日中学生合宿：成果発表会、明治神宮見学

商業施設視察、歓送報告会

##### 11月4日（月）

成田空港より帰国

### 3 写真

	
<p>10月29日 皇居・二重橋見学(東京都)</p>	<p>10月29日 森川嘉一郎明治大学国際日本学部准教授による講義(東京都)</p>
<p>10月29日 参観皇居・二重橋(東京都)</p>	<p>10月29日 森川嘉一郎明治大学国際日本学部副教授的演讲(東京都)</p>
	
<p>10月29日 森川准教授による講義での質疑応答(東京都)</p>	<p>10月29日 歓迎会で挨拶する劉子敬団長(東京都)</p>
<p>10月29日 森川副教授讲座中的答疑(東京都)</p>	<p>10月29日 刘子敬团长在欢迎会上致词(東京都)</p>
	
<p>10月29日 歓迎会で挨拶する植野篤志外務省アジア大洋州局中国・モンゴル第一課長(東京都)</p>	<p>10月29日 歓迎会で日本の大学生と交流(東京都)</p>
<p>10月29日 植野篤志外務省亞大洋州局中国蒙古第一課长在欢迎会上致词(東京都)</p>	<p>10月29日 在欢迎会上与日本大学生交流(東京都)</p>



10月29日 凸版印刷(株)印刷博物館視察(東京都)

10月29日 参观凸版印刷(株)印刷博物馆(东京都)



10月29日 国会議事堂視察(東京都)

10月29日 参观国会议事堂(东京都)



10月30日 神奈川県政の説明(神奈川県)

10月30日 神奈川県政府的说明(神奈川県)



10月30日 神奈川大学訪問・交流(神奈川県)

10月30日 神奈川大学访问・交流(神奈川県)



10月30日 神奈川大学訪問・交流(神奈川県)

10月30日 神奈川大学访问・交流(神奈川県)



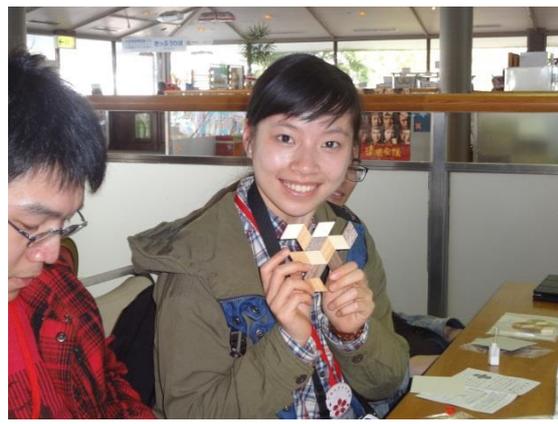
10月31日 ミカン狩り(神奈川県)

10月31日 采摘柑橘(神奈川県)



10月31日 芦ノ湖見学(神奈川県)

10月31日 参观芦之湖(神奈川県)



10月31日 箱根寄木細工体験(神奈川県)

10月31日 体验箱根嵌木工艺(神奈川県)



10月31日 箱根大涌谷見学(神奈川県)

10月31日 参观箱根大涌谷(神奈川県)



11月1日 静清浄化センター視察(静岡県)

11月1日 考察静清浄化中心(静岡県)



11月1日 (株)明治・東海工場視察(静岡県)

11月1日 考察(株)明治 东海工场(静岡県)



11月1日 登呂遺跡見学(静岡県)

11月1日 参观登吕遗迹(静岡県)

	
<p>11月2日 三保の松原見学(静岡県)</p>	<p>11月2日 日中学生合宿:日本の大学生と浅草見学(東京都)</p>
<p>11月2日 参观三保松原(静岡県)</p>	<p>11月2日 日中大学生合宿交流:与日本大学生参观浅草(東京都)</p>
	
<p>11月2日 日中学生合宿:意見交換会(東京都)</p>	<p>11月3日 日中学生合宿:成果発表会(東京都)</p>
<p>11月2日 日中大学生合宿:意見交換会(東京都)</p>	<p>11月3日 日中大学生合宿:发表成果会(東京都)</p>
	
<p>11月3日 日中学生合宿:日本の大学生と明治神宮見学(東京都)</p>	<p>11月3日 歡送報告会 訪日成果報告(東京都)</p>
<p>11月3日 日中大学生合宿:与日本大学生参观明治神宮(東京都)</p>	<p>11月3日 欢送报告会 汇报访日成果(東京都)</p>

#### 4 参加者の感想

○今回の訪問では印象深いことが沢山あった。

私は専攻がオートメーション制御なので、(株)明治東海工場視察で日本の先進的な生産技術やオートメーション化設備を見学できたことが特に興味深く、自分の専門分野の理解を深めることができた。また、凸版印刷(株)印刷博物館・VR シアター見学を通じて、過去から現代に至るまでの日本人の精巧さを求める姿勢に大いに驚いた。

神奈川大学訪問・交流も思い出深いものとなった。日本の学生とフェイス・トゥー・フェイスで交流するのは初めてだったので、とても貴重な経験となった。日本の大学生達はみな親切で、笑顔で積極的に質問に答えてくれたのでとても嬉しかった。

日中大学生合宿交流では、同室の日本人学生が中国語を勉強したことがあり、また私も日本語が少しできるので、日中英の三か国語を使って語り合った。日本のアニメ、中日の歴史、文化、ゲーム、ポップカルチャー、音楽…と深夜2時までさまざまなことを語りあうことができ、忘れがたい思い出となった。合宿を通じて日本の大学生の考え方や関心を持っていることについて理解することができた。

日本は素晴らしい国だと思う。日本人の温かくきめ細やかなサービス、また何をするにも真面目で厳格であることなどは、私たちも学ぶ価値がある。日本人の公共意識は中国人より高く、ごみ一つ落ちていない道路など羨ましく感じた。

帰国後、これら今回の経験を周りの人たちにも伝えたいと思う。中日友好が長く続くことを祈る。

○日中大学生合宿交流で、私たちのチームは「中日の正月文化と風習」をテーマとした。発表会を成功させるために、女子はポスター作製、男子は台本作りと分業してとりかかった。中国語、日本語、英語にボディランゲージを交えてコミュニケーションした。深夜1時半までかかり大変だったが、一緒に頑張ろうという気持ちで、とても賑やかで楽しいディスカッションとなった。発表会では、随行の先生方や他のチームの学生たちが大きな拍手で評価してくれた。しかし、一番の収穫は合宿を通じて私たちが理解と友情を深めることができたことだ。中日友好を心から願っている。

○8日間の訪問を通じて、日本に対する認識や捉え方が深まった。

まず、日本人は自らに高いレベルを求めるということを随所に感じた。最も印象深かったのは環境保全と資源の再利用の意識がとても高いということだ。これは日本の教育と大いに関係があると思う。子供のころから自分の事は自分ですることや、自ら行動することを学ぶことが、先進的な技術につながるのだと思う。限りある資源の有効活用や再利用の科学的成果は素晴らしく、下水処理やゴミの分類処理などは世界トップレベルだと思った。

また、日本には店も多く、日本のメーカー・ブランドが好まれていることが分かった。日本の温泉もとても情緒があり、必要なものがすべて整っていて非の打ちどころがないと感じた。日本の製造業・サービス業は進んでいて、どの分野においても専門的な基準が定められており、安心して物を買ったりサービスを受けることができる。

日本の食文化も素晴らしく、和食はヘルシーで美味しい上に上品な日本文化の神髄を伝えるものでもある。

今回、私が体験した日本を友人達にも伝えたいと思う。私自身、日本が好きになったので、また来たいと思う。日本の精神には学ぶべきところがある。中日両国が友好を続け、お互い学び合い補い合って、人類の発展と幸福に貢献できることを望んでいる。

○今回の訪問を通じて、歴史、政治、文化、科学技術、環境保全など、日本について幅広く理解することができた。訪問前の日本のイメージと言えば礼儀正しさとアニメで、どちらも日本文化に属し、かつ中国でも広く知られているものだ。私もこうした中国人としての日本のイメージを抱いてやって来た。

礼儀は国民が伝統文化を受け継ぎ、それを現代において表現したものだ。表面的なものとしては言葉がある。今回、私はより直接的に日本の礼儀を感じる事ができた。おはようございます、こんにちは、こんばんは、さようなら、少々お待ちください…と、一人ひとりの挨拶に礼儀正しさが表れていた。訪問先を離れる際には、毎回手を振って見送ってくれた。一つ一つの行動から礼儀の国であることを感じた。そして私の日本人に対する理解も、表面的なものからより深いものになった。

日本のアニメは私の子供時代の思い出と切っても切れないものだ。今回は、森川嘉一郎准教授の講義『初音ミクと日本のマンガ・アニメ・ゲーム』を聞き、日本の漫画・アニメ人気を背後で支えるパワーを理解することができた。一つの作品から、これほど歴史的考察ができるものかと驚いた。世代を継いで努力を重ねていく精神に敬服しつつ、さらに美しい三保の松原や明治神宮などを見学し、静清浄化センターや(株)明治東海工場の先進的な技術を見学・視察する中で日本政府が「物」を大事にしていることを随所に感じた。それは実際、多くの国民に恩恵をもたらすサービスだ。

日本の学生との交流を通じて、両国のさまざまな面における違い、物事に対する考え方の違いなどを学んだ。神奈川大学訪問・交流では、日本文学のリアリティーについてなど、文学について語り合った。MINAMI さんという素敵な女子学生と友達になった。私の専攻は芸術マネジメントだが、MINAMI さんの専攻は中国の歴史で、今ちょうど魯迅を研究中だと知り、文学をテーマに話がはずんだ。魯迅の作品に描かれる両国の人々の姿について語り、お互いの歴史を紹介した。この交流での最大の収穫は同じ魯迅の作品に対する中日両国の学生の見方の違い、そこから引き出される意見の違いを感じたことだ。

日中大学生合宿交流では、私たちのチームの日本側メンバーは東京大学の清水くんと慶応大学の新井さんだった。私たちは異なる生活スタイル・習慣という切り口で子供のころからどう過ごしてきたかについて意見交換した。その中で、日本の教育は自分から行動すること、総合的な資質を養うことに力を入れていることが分かった。一方、私も自分の専門を生かして中国の文化や芸術について紹介し、興味を持ってもらうことができた。これからもインターネットなどを利用して交流を続けたいと思う。

○今回の一週間の訪問中、印象深いことは絶えずあったが、最も印象深かったことを挙

げるなら、それは訪問先そのものよりも、そこで偶然垣間見た「楽しそうな青少年の姿」だった。

行く先々で、同じく見学に来ている日本の中高生や小学生、さらには幼稚園の子供たちを目にした。受験教育の中国と比べ、羨ましく感じた。日本では青少年時代はきっと楽しいのだろうと思った。

中日の教育を比較すると、中国は思考やロジックを重視し IQ が高いが、一方、日本は見聞を広め自分で行動することを重視し、EQ が高いようだ。現代社会においてどちらがより優位性があるのか判断は難しいが、いかに補い合うかが一つの重要な課題ではないだろうか。

私はアーティストとして、感性による体験をととても重視しており、そこには型にはまらない想像力が必要だ。日本企業の PR の手法は大いに参考になった。奥深い科学技術を“KAWAII”スタイルで表現しているのだ。もしかしたら近づきたいイメージのクラシック音楽も、“KAWAII”手法で観客との距離を縮められるかもしれない。

今回見たこと、聞いたこと、すべてがはっきりと記憶に残っている。帰国したら話して聞かせるだけでなく、音楽というスタイルも取り入れて周りの人たちに今回の体験を伝えたいと思う。

○今回の中国大学生訪日団に参加できて光栄だ。一週間という短い時間だったが多くの収穫があった。本場の日本料理を食べ、立派な皇居・二重橋や国会議事堂を見学し、日本の現代文化に関する講義『初音ミクと日本のマンガ・アニメ・ゲーム』を聞き、日本の伝統美や自然を堪能し、日本企業も訪問した。訪問を通じて日本のさまざまな面を知ることができた。

中でも最も印象深かったのは、日中大学生合宿交流だ。初めに日本側学生の案内により日本の寺院を訪れ、続いて日本の学生と共に意見交換会を行った。私たちのチームはディスカッションを進める中でテーマが何度も変わったのだが、議論を通じて中国と日本の共通点と相違点という明確なテーマにたどり着き、それがお互いの理解を促進するものとなった。翌日の発表会では、絵や板書、寸劇や歌などさまざまなスタイルで行われ、テーマは新年の祝い方、日本のトイレ、両国の高校生活、大学生活、人材育成、お互いの国のイメージ、食文化などがあり、どのテーマも両国の共通点と相違点を分析しており、私たちは真の日本を知ることができ、また日本の学生達に真の中国を伝えられたと思う。相互理解に基づく友情を深めることができた。また、日本の学生達と連絡先やプレゼントを交換したりと、友達作りにもなった。

以前に学校の授業で日本の修学旅行をテーマに発表をしたことがあったが、インターネットで資料を調べただけだったので特に印象には残っていなかった。しかし、今回の訪問先で修学旅行の日本の学生達を見つけ、実際どういうものなのかよくわかった。神奈川大学訪問・交流でも修学旅行について話し合い、その意義や役割について理解を深めることができた。さらにはこのテーマをきっかけに、日本の学校生活について興味を湧き、日本の大学生とサークル活動や学業、生活などについてディスカッションできたので、今後の授業での発表や論文などに大いに役立つと思う。

日本の友達もたくさんできた。日本語の先生になって、中日友好に貢献したいという思いを新たにする訪問となった。

○今回の訪問で最も印象深かったのは凸版印刷(株)印刷博物館・VRシアターの見学です。最初に先進的な3D技術を体験し、続いて印刷の歴史や技術について学び、とても楽しい見学となった。

見学を終えて帰る際に友人の靴のかかところが折れてしまい、大変困っていたところ、スタッフの方が接着剤を持ってきてくれ、たいへん親切に助けてくれた。帰り際にはバスにいる私たちに、見えなくなるまでずっと手を振っていてくれた。とても小さな出来事だが、日本人の真面目さや友情、細やかな心配りを感じとても感動した。

帰国したら家族や友人にこの話をして、真の日本の姿を伝えたいと思う。私も中日友好の使者となり、両国の友好の架け橋になりたい。

○到着初日、宿泊先のホテルで温水洗浄器付きのトイレを見つけ、これが噂に聞いていた高級トイレかと嬉しくなった。でもすぐに、この高級トイレは日本ではごくスタンダードであることを知った。他にも、足の不自由な方のためのバスのステップや、トイレに子供連れの母親向けの特別ルームがあることを知り、日本は国民がより便利で快適な生活を送れるよう絶えず努力している、人に優しい国だと思った。

また、白髪のお年寄りが車を運転しているのをたびたび目にした。これは中国では考えられないことだ。最初は、日本人が長生きで健康的な生活をしているので、年をとっても頭がしっかりしているからだと思った。しかしよく考えてみると、もし日本のお年寄りが中国で車を運転したら、それはとてもハラハラするに違いない。恥ずかしいことだが、中国の交通事情は日本とは比べものにならないのだ。これも国民の性格の表れだと思う。

2日目にはセミナー『初音ミクと日本のマンガ・アニメ・ゲーム』を聞き、日本のマンガ・アニメの歴史について理解し、日本のマンガ文化にさらに興味を持った。帰国したら友達との話題にしたいと思う。

教育面についてだが、中国の教育は教科書の勉強にほぼ限られており、試験のために勉強する学生も多いのだが、日本の教育は実践により力を入れているようだ。芦ノ湖の箱根海賊船では、小学生の一団に出会った。小学生たちは外国人と交流するチャンスを使って、英語を伸ばそうと頑張っていた。大学生についても、日本では大学3年生になると就職活動を始め、そのために学業の優先度も下がるようだが、中国では4年生になって始めてインターンシップをする。中国の高校生活には自由な時間がほとんどないが、日本の高校生は自分のやりたいことができる。これは人生における成長と経験の上で大いに役に立つと思う。

日本の若者は素朴で礼儀正しく、そしてさまざまな国の人とコミュニケーションしたいと考えており、グローバルな意識が高いと思った。日中大学生合宿交流は今回が初の試みだということだが、とても成功したと思う。

○今回の訪問は、短いながら印象深いことがたくさんあった。中でも一番印象深いのは、スーパーで出会ったご夫婦が、私が探していた「千島醬（サウザンアイランドドレッシング）」を見つけてくれたことだ。中国で食べてとてもおいしかったので日本で買いたいと思っていたのだが、日本語で何というか忘れてしまい、そのご夫婦に「千円の千、島の島、醤油の醬」と中国語の名称で説明したのだが、分らなかった。そこでお礼を言って別れ、ドレッシングはあきらめようと思った。それからお土産のお菓子を買ったり化粧品を見て回ったところで、またそのご夫婦に会った。ご夫婦はインターネットで調べてくれ、私が何を探していたか分かったというのだ。そして売り場を見つけて連れていってくれた上に、どれが美味しいのかまで教えてくれた。どうして私にそこまでしてくれるのだろうと、この上なく感動した。このご夫婦のことは一生忘れないだろう。

帰国したら、まずは祖父母に日本人は友好的で親切で善良であると伝えたいと思う。私と同じく日本語を学ぶ同級生たちには、日本語を専攻したことは決して後悔する選択ではないこと、チャンスがあればぜひ日本に行って日本の文化的な雰囲気を感じ、先進技術を体験して欲しいと伝えたいと思う。

○今回の「JENESYS2.0」中国大学生訪日団は中日友好の使者として日本を訪問し、温かいもてなしを受け、とても嬉しく感動した。今回の訪問では日本の名所旧跡の見学だけでなく、自然を満喫し、また日中大学生合宿交流では、日本の自然、歴史、政治、風土人情について理解を深めることができた。

中でも合宿交流は忘れがたいものとなった。私は日本語専攻なので日本人と交流する機会は多い方だが、それでも日本の学生と合宿するのは初めての体験だった。違う国から来た学生が一堂に集い、言葉や国籍の壁を超えて語り合った。発表会もさまざまなスタイルで行われ、中日青少年の創造性と協調性を十分に発揮した、素晴らしいものとなった。また、日本側学生の案内で浅草寺や明治神宮を見学したが、日本の伝統には心惹かれるものがあった。その一方で、日本の進んだ科学技術、スムーズな交通、美しい環境に驚かされた。今回の訪問は日本と日本人の飽くなき魅力を伝えてくれるものだった。

帰国したら、周りの人たちに何よりも日本の環境の素晴らしさを伝えたいと思う。東日本大震災などの影響で、私も含めて中国人やほかの外国人は日本の環境に不安を感じていたし、日本製品に抵抗感もあった。しかし、今回の訪問での実体験を通じてこうした不安は無駄であったことが分かった。原発事故への対応は難しい問題だが、日本の進んだ科学技術と仕事に対する厳格な姿勢があれば、きっと解決できると思う。